令和6年度第1回高知県健康づくり推進協議会 議事要旨

日時：令和6年7月31日（水）18:30～20:30

場所：高知城ホール「くすのき」

方法：対面とオンライン（Zoom）の併用開催

出席者：出席16名、代理出席1名、県教育委員会1名、事務局6名、オブザーバー6名

議題（1）第5期高知県健康増進計画（よさこい健康プラン21）の推進に関する令和6年度の取り組みについて

■基本目標 壮年期の死亡率の改善による「健康寿命の延伸」について

- ・委員より、壮年期死亡率の推移のグラフについて、R4年度の数値はいつ分かるのかご質問があり、事務局から、次回協議会で報告できる旨回答した。

■「子どもの頃からの健康的な生活習慣の定着」「働きざかりの健康づくりの推進」について

- ・委員より、ポイントが使えるアプリが色々ある中で、健康パスポートアプリを使ってもらえているのはありがたい。グループで参加するイベントもあってよかった、とのご意見があった。
- ・委員より、高知市のいきいき健康チャレンジを、今年から健康パスポートアプリを使って参加できるようにした。若年層の参加が増え、色々な機能も使えてありがたい、とのご意見があった。
- ・委員より、食育推進重点校を指定し、朝食摂取率向上のための組織的な指導による食育の充実と推進を図る取り組みについて、今年が初めてか、また、取り組む学校の詳細について聞きたいとのご質問があり、事務局からは、今年度からの取り組みであり、対象校は、食育ができる関係機関との連携体制が整っているなど、様々な食育の取り組みを推進している中、朝食摂取に少し課題が見えた小学校2校を選定したと回答した。

委員から続けて、1年間の取組結果と今後についてまた報告してほしいとのご意見があり、事務局からは、次回協議会で、進捗状況等の報告をすると回答した。

- ・委員より、「運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合」について、小学5年生男子に少し改善がみられ、運動が増えると「肥満傾向にある子どもの割合」も小学5年生男子が少し改善しているのかなと思った。運動に関する取り組みやがん教育に関する取組を様々行っているが、外部講師派遣の要望が学校からはどのくらいあるのか、また、その要望には100%応えているのか、とのご質問があり、事務局からは、運動に関する取り組みとしては、大学の先生とスポーツインストラクタ

一の計2名に講師として毎年20校の学校に行ってもらっており、毎年すぐその枠は埋まり、行けなかった学校は、翌年度に行くようにしているため、運動能力向上のための外部講師派遣については、100%応えている。がん教育の取り組みとしては、今年度の申請は62回程度であり、学校都合等でキャンセルになることを除いては希望する学校に100%派遣できていると回答した。委員から続けて、今後外部講師を増やしていく計画はあるかのご質問があり、事務局からは、増やす計画はあり、講師を探しているが、難航していると回答した。

- ・委員より、健康パスポートについて、ワークライフバランスの認証を必須条件にしたら、件数も増えるのではないかとのご意見があり、事務局からは、9月1日から事業所版健康パスポートアプリの取得がワークライフバランスの認証の必須条件となる。3年に1回更新があるため、事業所版登録数の目標値は達成できると考えていると回答した。

■「生活習慣病の発症予防と重症化予防対策」について

- ・委員より、がん対策における今年度の取組に大腸がん検査キット送付事業の実施とあるが、具体的に教えてほしいとのご質問があり、事務局からは、健康対策課の取組であるため後日回答する旨伝えた。
- ・委員より、栄養士会では、県の委託を受けて、外来栄養食事指導推進事業を行っている。病診連携として、診療所から紹介を受けた患者へ栄養食事指導を行う協力医療機関が90施設ある。病診連携による栄養指導件数は、令和4年度に比べて令和5年度は増加しているが、医療圏域ごとに比較すると、実施状況にばらつきがあるため、県の方からも推進への支援をお願いしたい。また、保険者との連携については、事例発表を行っているが、保険者と連携した取組を行っている施設が少ないため、保険者の連携に向けた意識づくりにも協力していただきたいとのご意見があった。事務局からは、保険者と医療機関の連携については、課題と受け止めている。透析予防強化プログラムは、医療機関から対象の患者を抽出してもらう仕組みとなっているため、それをきっかけに、保険者と医療機関の連携が進んだ事例が幡多圏域や中央西圏域である。このプログラムをきっかけに、連携を進めていきたいと回答した。
- ・委員より、特定健診受診率向上に向けて、健康づくり婦人会でも取組を行っているところ。健康づくり団体連携促進事業費補助金は、以前からあったかのご質問があり、事務局からは、毎年交付している補助金のことであると説明した。

■分野ごとの健康づくりの推進について

- ・委員より、骨粗鬆症の検診を無料で実施しているという話を聞いたことがあるが、

県内実施は0件とのことで、病気にならないと骨粗鬆症の健診を受けていないのかなという気がする。そんなに難しい健診ではなく、骨粗鬆症検診は、労働安全の面でも重要で、高齢の労働者が転倒で骨折する話もよく聞くので、力を入れていかないといけないと思う。

また、適正体重の維持について、仕事をしていると、飲み会があったりして、なかなか痩せるのは難しく、働いている人へのアプローチはなかなか難しいと思う。

また、喫煙に対して、すでに吸っている人に喫煙をやめさせることは難しいが、まだ喫煙をしていない人達への喫煙の危険性の啓発を行っていくことが大切だと思うとのご意見があった。事務局からは、骨粗鬆症検診について、健康祭り等のイベントでの骨密度測定は、色んな市町村で実施しているが、検診となると、医師の診断が必要になるため、その定義に当てはまる検診は実施していない。今後、そういった条件を満たして検診を実施していくためにはどうすればいいか、関係機関と協議していきたいと回答した。また、たばこについての啓発については、健康教育副読本の特に高校生に向けた副読本の中で、たばことお酒の依存症の可能性について注意するよう記載しており、薬物乱用の防止の方でも、薬剤師にも協力していただき、啓発している旨回答した。それに対し、委員からは、副読本でせっかく禁煙を扱っても、指導する教員が喫煙していたら意味がないので、そこはきちんと留意するようご意見があった。

- ・委員より、健康づくりは職場との連携が不可欠であるため、今後とも協力をお願いしたい。また、分野ごとの健康づくりについて、健康づくりひとくちメモは、何曜日の何時から放送しているものか、また、見逃しても後から見られるようなものなのかとのご質問があり、事務局からは、テレビ高知の県民ニュース毎週月曜日と水曜日の18:53から30秒で、25テーマを放送しているが、SNSでの配信や後から見られるようなものはない。健康チャレンジのチラシに載っている5つの分野については、SNSやホームページで広報していくが、それ以外の項目については、ご意見を今後活かしていく。また、職場との連携は不可欠なので、今後ともよろしくお願ひしたいと回答した。
- ・委員より、(2) 身体活動・運動のモニタリング指標について、「身体活動」とは、具体的にどのようなことを指すのかとのご質問があり、事務局からは、特定健診の間診票より、「歩行もしくはそれと同等の行動」とされており、通勤や掃除などの活動も含まれていると回答した。

■社会環境の質の向上について

- ・委員より、最近一人暮らしの壮年期男性が増えているように思う。働いている時はいいが、退職後に孤独と思われる方が増えており、そういう方は自分の健康についても無関心な方が多いように思う。退職後も、地域の人とのつながりや、友達との

交流が持てるように、働いている時から、健康だけでなく、趣味等もみつけていけるような環境づくりを県の方からも働きかけていってほしいとのご意見があり、事務局からは、日本一の健康長寿県構想においても、柱の一つに「高知型地域共生社会」の推進として、孤独を感じる人を減らすことを目標に掲げているため、福祉分野と連携しながら進めていきたいと回答した。

議題（２）令和６年度各専門部会について

- ・委員より、専門部会は書面開催でいいのか。書面だけだとあまり議論にならないのではないか、とのご意見があり、事務局からは、令和４年度に各部会の委員にも伺い、必要があれば対面での実施をするが、実績報告等については書面での報告で構わないとご意見いただいた旨回答した。それに対し、委員からは、ウェブ開催でもいいので、意見を求める部分があるのであれば、書面ではない方がいいのではないか、とのご意見があり、事務局からは、開催方法については各部会長に相談し決定する旨回答した。

以上をもって閉会とした。